

平成30年7月30日

豊田市議会議長 鈴木 章 様

環境福祉委員会

委員長 羽根田 利明



委員派遣実施報告書

本委員会は、下記のとおり委員派遣を実施しましたので、委員会条例第37条第1項の規定により提出します。

記

1 日 程 平成30年7月24日（火）～7月26日（木）

2 派 遣 先 24日（火）…群馬県前橋市／  
及び内容 フードバンク事業  
25日（水）…富山県富山市／  
富山型デイサービス  
26日（木）…石川県／  
健康フロンティア戦略事業

3 派遣委員 委員長 羽根田 利明  
副委員長 田代 研  
委 員 松井 正衛 日恵野 雅俊 山野辺 秋夫  
根本 美春 木本 文也 浅井 保孝  
吉野 英国

4 報 告 書 視察報告書のとおり

5 そ の 他 随 行 者／太田 吉朗、近藤 みさき

## 視察報告書【1】

委員会名	環境福祉委員会	委員長	羽根田 利明
視察日時	平成30年7月24日（火）午後2時15分～午後3時45分		
視察先・概要	群馬県前橋市 人口：338,088人 面積：311.59km <sup>2</sup> ※人口はH30.7.1現在		
視察内容	フードバンク事業		
選定理由	フードバンクは安全性に問題のないものの余剰在庫や包装の不良などから販売できなくなった食品を、生活困窮者などに配布する制度である。前橋市では、昨年6月に群馬県内では2例目となるフードバンクをオープンさせた。「フードバンクまえばし」の名称で、市が事業主体となり、運営はNPO団体へ委託し、地産地消のフードバンクを目指している。本市においてもフードドライブ事業の充実を図る上で参考となると考えたため。		
豊田市の現状と課題	本市では食品ロス削減への取組として、家庭で余っている（消費しない）食品を環境学習施設エコットでのイベント時に持ち寄り、集まった食品を有効に活用するフードドライブ事業を昨年度から始めたところである。集めた食品は、豊田市社会福祉協議会等で生活に困窮している方の支援に活用されるが、今後、福祉部門とのさらなる連携や市民への周知活動が課題である。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経緯：平成29年にフードバンク事業開始。福祉の観点から事業を実施。経験と実績を有するNPO法人に委託。</li> <li>・対象者：生活に困窮し、自立に向けた支援の必要な方等。生活保護受給者は対象外。</li> <li>・事業所：フードバンクまえばしを市役所近くに設置。</li> <li>・申請窓口：まえばし生活自立センターにて申請者から生活の困窮状況を聞き、支援を要すると判断した場合は、必要に応じて家計支援や就労支援等の各種支援も併せて実施。包括的な支援ができる体制にしている。食糧支援を受けることが出来る期間が原則3か月までとする。</li> <li>・メリット：新たな支援対象者の掘り起こしにつながり、早期段階における自立支援が可能。また、地域の子ども食堂等に食糧等を提供することで、子どもの居場所づくりにも貢献している。夏休み期間中には、フードバンクまえばしが提供する食糧を活用し、キッズカフェが開催され、多くの子どもたちが参加。個人からの食糧提供やボランティアも増加し、支え合いの地域づくり構築にもつながっている。</li> <li>・デメリット：国庫補助事業の対象外であり、一般財源を使用しており、財政負担が大きい。</li> <li>・事業経費：9,543,960円（平成30年度契約額）</li> <li>・実績：支援対象者の平成29年度の利用申請件数は、目標の200件/年を10か月で上回り、354件であった。</li> <li>・今後の展望：市内の郵便局から協力申出があり、3局にて市民からの寄付食品受入場所の設置を協議中。</li> </ul>		

評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経験と実績を有するNPO法人に委託しながら、福祉部局が主となり、生活困窮者の自立に向けた各種施策と一体的に包括的な支援ができている。</li> <li>・生活困窮者の自立支援という福祉的な意味合いから事業が始まり、そこから子ども食堂をはじめ、地域の子どもの居場所づくりにも発展している点が評価できる。</li> <li>・市役所の近くに一つの拠点（フードバンクまえばし）をつくっており、生活困窮者たちが、すぐに市役所にも行くことができるため、立地条件に恵まれている。</li> </ul>
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の面からのフードバンク事業がキッズカフェなどの子どもの居場所づくりに発展し、地域における支え合いにつながっていることは、本市の子ども食堂にも貢献でき、参考になる事業である。</li> <li>・生活困窮者の自立に向けた様々な施策と一体で取り組み、包括的な支援ができている点は参考になる。</li> </ul>
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市では、実績のあるNPO法人など委託できる先が市内にはないことや、国庫補助金の対象にはならないことから、一般財源を使うという課題がある。</li> <li>・食糧がうまく集まらないといった問題もあり、生活困窮者や食品ロス削減の実態把握をしながら検討を進める必要がある。</li> </ul>



## 視察報告書【2】

委員会名	環境福祉委員会	委員長	羽根田 利明
視察日時	平成30年7月25日（水）午後1時10分～午後2時40分		
視察先・概要	富山県富山市 人口：417,472人 面積：1,241.77km <sup>2</sup> ※人口はH30.7.1現在		
視察内容	富山型デイサービス		
選定理由	富山型デイサービスは、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もがいっしょに身近な地域で過ごす福祉サービスである。改修した民家等を使った小規模な施設が多い。平成5年に開所した「このゆびと一まれ」で始まり、平成9年からは補助金が交付されることとなり、「富山型」「富山方式」と呼ばれ、全国に広がっている。本市においても、共生型のサービスの創出・事業展開支援にあたり参考になると考えたため。		
豊田市の現状と課題	本市では、健康と福祉の相談窓口の設置をはじめ超高齢社会に適応するための取組を進めているが、地域共生型社会システムの深化に向け、更なる展開を進める必要がある。第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画（2018年3月）においても、重点施策として地域共生の推進を掲げている。地域住民をはじめ地域の多様な主体と行政が共働し、地域共生を推進していくため、対象者を限定することなく広く受け入れる共生型サービスの創出が課題となっている。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経緯：平成5年に富山赤十字病院を退職した3人の看護師が開所したデイケアハウス「このゆびと一まれ」において、年齢や障がいのあるなしに関わらず受け入れることから始まり、「富山型」と言われるようになった。</li> <li>・特徴：小規模（利用定員15人程度で家庭的）・多機能（高齢者・障がい者・乳幼児などの受入可）・地域密着（身近な住宅地の中に立地）がキーワードである。</li> <li>・行政との連携：平成9年に民間デイサービス育成事業開始。補助が始まる。平成12年に介護保険制度、平成15年に支援費制度が開始。同じく、平成15年に県と3市2町での富山型デイサービス推進特区申請が認可され、介護保険上の指定通所介護事業所等での知的障がい者、障がい児のデイサービスの利用が可能となる。平成18年から全国展開。また、平成18年には富山型福祉サービス推進特区が認定され、小規模多機能型居宅介護事業所でも障がい者・児の受入れが可能となり、平成22年から平成28年にかけ、全国展開となる。平成23年には、とやま地域共生型福祉推進特区として、富山型デイサービスを福祉的就労の場として拡大するための基準を緩和。</li> <li>・事業所数の推移：富山県の事業所は平成15年の27件から平成27年には121件に増加し、全国でも1,498件になる。</li> <li>・富山型デイサービス施設支援事業：富山型事業所を立ち上げるための施設整備について、助成制度を設置。中心市街地に立ち上げる場合は、県1/3、市2/3補助となり、事業者負担なし。</li> <li>・人材育成事業：富山県厚生企画課が中心となり、起業家育成講座や職員研修会を実施。</li> <li>・課題：障がい福祉サービス報酬の改善が課題。基準該当事業所の障がい福祉サービス報酬が指定事業所よりも低い。</li> </ul>		

評価と その理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模・多機能・地域密着をキーワードに進めており、年齢や障がいの有無に関わらず、誰もがいっしょに身近な地域で過ごす福祉サービスであり、評価できる。</li> <li>・人材育成についても取り組んでおり、起業家育成講座や職員研修の実施を評価できる。</li> <li>・福祉的就労の場としての基準を緩和し、障がい者の就労先としても受け入れを行っている点について評価できる。</li> <li>・富山型事業所の整備助成制度があり、特に中心市街地に事業所を立ち上げる場合は、市が事業者の負担分を上乗せ補助する点は個人が起業することが可能となり、評価できる。</li> </ul>
本市に反映 できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富山市から広がり、全国でも、1,489か所と事業所数も増えてきている。実績が積み重なってきており、豊田市においても、こういったサービスを考えていくと、地域に非常に貢献できるものになる。</li> <li>・本市においても、空き家を利用することは可能であり、民家を改修し、小さな規模で行っている点は参考になる。</li> <li>・本市も総合相談窓口ができるなど、高齢者や障がい者に限らず、様々な相談がある。今後の地域共生推進にも参考になる事例である。</li> </ul>
その他 (意見・課題 など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市でも様々なデイサービス事業が行われているが、地域の特性や文化、歴史といったことがあり、即、全てが当てはまるかどうかという課題はある。実態を分析し、富山型を参考にしながら、事業の充実を進める必要がある。</li> <li>・様々な利用者が来たときに対応できる人材の確保が難しい。</li> <li>・基準該当事業所の障がい福祉サービスの報酬が指定事業所よりも算定が低いということもあり、今後の国の規制緩和等も考慮しながら、本市にいかに反映できるか検討が必要である。</li> <li>・富山型デイサービスは、全国のデイサービスの見本のような形になっているが、平成5年に看護師たちが中心となり始まっている。中心的な人物が、情熱を持って取り組んでおり、こういった方々がいるのは大きい。</li> </ul>



### 視察報告書【3】

委員会名	環境福祉委員会	委員長	羽根田 利明
視察日時	平成30年7月26日（木）午前9時30分～午前11時00分		
視察先・概要	石川県 人口：1,142,603人 面積：4,186.09km <sup>2</sup> ※人口はH30.4.1現在		
視察内容	いしかわ健康フロンティア戦略事業		
選定理由	石川県では、健康寿命の延伸の実現のため、「健康増進対策」「生活習慣病予防対策」「介護予防対策」を切れ目なく一体的に推進するための総合的な行動計画として、いしかわ健康フロンティア戦略事業を定めており、平成30年度から第3次の計画が始まったところである。第3次計画では、いしかわヘルシー＆デリシャスマニューの普及など主な取組を具体的に掲げており、本市における健康づくりの推進においても参考になるとえたため。		
豊田市の現状と課題	本市では、全ての市民が共に支え合いながら希望や生きがいを持ち、生涯にわたり健やかでこころ豊かに生活できる社会を実現するため、平成30年度から健康づくりとよた21計画（第三次）をスタートさせている。健康寿命の延伸、健康づくりに取り組む市民の増加、主観的健康感（観）の向上を基本指標としている。重点プロジェクトとして、野菜と運動を日常生活に取り入れた健康づくりなどを掲げており、計画に基づきながら健康づくりの取組を推進する必要がある。		
視察概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略の策定趣旨：県民一人ひとりが健康で生きがいを持ち、自立した生活を送ることができるよう、「健康寿命」を延伸し、活力ある高齢社会の実現を目指して「健康増進対策」、「生活習慣病予防対策」、「介護予防対策」を切れ目なく一体的に推進する。</li> <li>・戦略の位置づけ：健康増進法に基づく健康増進計画</li> <li>・戦略の目標：健康寿命の延伸</li> <li>・戦略の機関：平成30年度から6年間</li> <li>・石川県の健康寿命：男性 72.67歳（全国5位）、女性 75.18歳（全国16位）</li> <li>・戦略の視点：県民一人ひとりの健康づくりの実践、生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底、生涯を通じた健康づくりの推進、健康づくりのための環境整備</li> <li>・一人ひとりの健康づくりの実践</li> </ul> <p>①いしかわヘルシー＆デリシャスマニュー普及（食生活）</p> <p>県民の野菜摂取用不足しており、塩分は摂り過ぎの傾向にあることから、エネルギーと塩分、野菜量に配慮して開発した「いしかわヘルシー＆デリシャスマニュー」の普及を通して、正しい食生活の理解と実践のための支援を行う。</p> <p>②ロコモ予防の普及（運動）</p> <p>ロコモティブシンドロームとは、筋肉や骨、関節といった運動器に障がいがおき、歩行や日常に何らかの障がいをきたしている状態である。</p> <p>骨・関節疾患、骨折・転倒は、介護が必要となった原因の上位を占めることから、若い頃からロコモティブシンドローム予防に取り組み、健康寿命延伸を目指す。</p>		

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がん対策：健診データしっとくナビ（自分の健診データを科学的・医学的に理解し、学べるツール）</li> <li>・「健康経営」の推進：働く世代（20～50代）の健康状態に課題があるため、経営者への意識啓発、企業の「健康経営」総合推進事業を行う。</li> </ul>
評価とその理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いしかわヘルシー＆デリシャスメニューの普及など主な取組を具体的に掲げており、生活習慣病の発症予防と重症化予防のため、検診データしっとくナビを活用している点は評価できる。</li> <li>・事業所への取組に重点を置いており、中小企業での健康づくりへの取組は評価できる。</li> <li>・健診データしっとくナビで、健康診断のデータを入力して自分の状態を知ることができ、健康意識の向上につながる点は評価できる。</li> </ul>
本市に反映できること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の保持・増進、疾病の発症予防・重症化予防が課題となっている中、単に長寿というだけでなく、健康寿命の延伸を基本目標にしており、具体的な取組を掲げている点は参考になる。</li> <li>・本市においても中小企業は多いため、健康経営の視点から、ターゲットを絞った事業は効果的である。</li> <li>・「健診データしっとくナビ」のような健診結果を科学的に理解し、学べるツールをホームページ上で提供することは、健康意識の向上につながる。</li> </ul>
その他 (意見・課題など)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いしかわヘルシー＆デリシャスメニューの取組については本市にも参考になるが、企業や弁当会社など関係団体と協力しながら、周知活動を進めていくことが必要である。</li> <li>・介護など社会保障費が増加していることからも、本市においても市民の健康寿命の延伸、健康づくり、企業との共働による健康経営の推進が重要である。</li> <li>・健康に関して、大企業は独自に取り組んでいるが、中小企業においても今後健康経営という観点で支援していく必要がある。</li> </ul>

